



平成26年6月2日(月)
校長通心 No.26 校長 馬渡教二



真樹へ (かとう えみこ)

おまえが育つ21世紀は
どうなっていくのだろう
おまえがこうして
お乳を飲んでる今も
どこかで人が殺し合い
同じくらいの子どもが
飢えや病で死んでいく
なんて悲しいことなんだろう
おまえにはその悲しみを
知ってほしい
平和であることの喜びを
感じてほしい

この地球で人間ひとりなんて
とても小さく無力だけれど
自然を愛する心は
宇宙よりも大きく広がる
地球のみんなが
平和を幸福を願えば
その心が地球を包み込んで
いつかきっと
みんなが幸福になれるはず
おまえも他人の幸福を願う
そのひとりになってほしい

わたしたちがおまえに
遺せる財産など何もないけれど
わたしたちが人生で思うこと
おまえが生まれて感じたこと
全て話します
おまえが強い心をもつために
おまえが広い心をもつために

ルールは自由を保障するための手段

生徒会の5月の月間目標は「ルール・マナー」だった。けれど、連休明けには不要物の持ち込みや「ライン」の人間関係などで「ルール」を守れずに指導される場面も見うけられた…。不要物に限らず、学校には様々なルールがあるのはなぜだろうか？なぜルールが必要なのだろうか…？ちょっと考えてみる。

ジャンケンを出してほしい。ジャンケンは、①グーはパーに負けるがチョキに勝つ②チョキはグーに負けるが、パーに勝つ③パーはチョキに負けるがグーに勝つというふうに「ルール」がはっきりしている。もし、グー・チョキ・パー以外の手のサインを出したらジャンケンは成り立たなくなってしまう。これが「ルール」の本質だと思う。決められた「ルール」を守る限り、グー・チョキ・パーのどれを出しても良い自由が保障され、遊びの楽しさも保たれる。「ルール」がスポーツのように勝負を決めるものに設定されている場合は、決められた「ルール」を守る限り、試合はフェアで充実するし、きっちりと勝敗もつく。「ルール」が、社会生活を営む上で重要なものである場合は「法律」とか「条例」として定められ、違反者には罰則が与えられている。こう考えると、「ルール」は、人々が「ルールを守る態度を大事にし続ける」という前提で、安心して、なるべくのびのびと社会生活ができるように配慮されているということである。つまり、「ルール」は、それを設定した集団で、それを守る限り、その集団に属する人々に自由を保障するための手段と言える。だから、学校で「○○してはいけません」とか「○○を守りましょう」というのは、結局は『みんなが気持ちよく学校生活ができるように』という、先人の知恵が含まれているのである。

例えば、みんなは7:50から朝読書がスタートするからそれまでに教室に入り準備を整えている。もしギリギリのときは走ってでも間に合おうとし急いで準備しているはずだ。これは、「7:50から」という明確なルールがあるからだと思う。しかし、規律委員会が取り組んでくれるような服装や頭髮に関しては、「スカートの長さはひざがかくれる程度」「ソックスの長さはくるぶしが完全に隠れる程度」とか「眉毛に髪がかからない程度」「耳に髪がかからない程度」とか「中学生らしく」とか、ルールには近いけれどルールとは微妙に違うニュアンスで「ここまでは許されそう」「ここからは注意されそう」と線引きする感じの徹底しにくい性質のものもある。これは、思春期まっただ中で、周りのみんなから自分がどう見られているかが気になってしょうがない中学生にとっては、頭では善悪の判断はついていても、周りに合わせた服装や髪型にしていたほうが集団の中の自分の位置関係をうまく保っていられることもあり、周りに流されやすくなってしまう部分だと思う。おまけに、ファッション雑誌には、いろんな情報が満載だし、個人々の学んできた(生まれ育ってきた)価値判断によっても個人差がとて出るところである。だからこそ扱いにくい部分だけれど、それゆえに絶対にほっといではいけない部分だと思っている。裏を返して考えてみると、この服装・頭髮の部分がしっかりできるということは、優れた倫理観(人間の行為の善悪・徳・良心に関わる部分＝人の道)を身につけるまでに成長した集団であるということの証になると言ってい！！…この指導には、指導する側の先生方にとっても難しい問題だし、だからこそ、共通理解を繰り返して取り組んでいる部分である。この間の生徒朝会で3学年が修学旅行の報告会を映像を交えて行ってくれた。そのとき、最後に阿部美祐さんがこう話してくれた。

『私たちが修学旅行で学んだことは、時間を守ることの大切さです。私たちは4日間事故・ケガ・トラブル等もなく、マナーをしっかり守ることができたと思います。しかし、日がたつにつれて気が緩んでしまって指示を黙って聞くことや、判断力・集中力が薄れてしまい注意を受ける場面が多くなってしまいました。疲れてきたときこそ、周りに気を配って集中して話を聞くことが大事だと実感しました。これからの生活でより意識していきたいと思います。また、時間に遅れることは全体に迷惑をかけるだけでなく、そのぶん自分たち自身に返ってくるのだと感じました。これらのことから、学校のルールや決まりの重要性を改めて考え行動していこうと思います。ただ時間を見て行動するだけでなく、その場の状況やその後の予定に合わせて「先を見て」考えてから行動しようと思います。修学旅行の成功は、その後の生活にかかっていると思います。今一度自分たちの生活を見直して文武両輪で生活していこうと思います。1、2年生のみなさん修学旅行はとっても楽しいものです。ですが、楽しい修学旅行をつくるのは自分たちです。楽しいものにするために普段の生活から先生方の話を集中して聞き時間を意識して生活するようにしましょう。』

彼女もまた、修学旅行という「武の車輪」を通過することで、学校のルールの大切さを実感したことが伝わってくる。明確な「規則(ルール)」とか倫理的な「心得」は、学校のように、大規模な集団で、なおかつ思春期を通過しながらの成長過程にあるみんなを責任をもって預かる場所には、絶対になくてはならないものであり、確かにみんなの行動を規制することも多いかもしれないけど、それ以上にみんなを保護(みんなの安全を守り、学習する権利を守り、教育的環境を維持していく…)しているということを忘れないでほしい！！

……さて、夏季大会が近づいてきた。学校を離れ各会場等でルールをはじめ、善悪、徳、良心に関わる部分の強さが試されるときである！！……そして、夏季大会終了と同時に、2次考査週間と校内合唱コンクールの練習がスタートする…ガンバ！！

